

● 2024 年度 中国語課題文（ペア部門）

※指示 一人が黒文字部分をもう一人が青文字部分を朗読してください。

余光中《乡愁》 Yú Guāngzhōng 《Xiāngchóu》

小时候,	Xiǎoshíhou,	おさない頃、
乡愁是一枚小小的邮票,	xiāngchóu shì yìméi xiǎoxiaode yóupiào,	郷愁とはちっぽけな切手。
我在这头, 母亲在那头。	wǒ zài zhètou, mǔqīng zài nàtou。	私はこっち、お母さんはあっち。
长大后,	Zhǎngdàhou,	大きくなったら、
乡愁是一张窄窄的船票,	xiāngchóu shì yìzhāng zhǎizhaide chuánpiào,	郷愁とはちっぽけな乗船券。
我在这头, 新娘在那头。	wǒ zài zhètou, xīnniáng zài nàtou。	私はこっち、花嫁はあっち。
后来啊,	Hòulai a,	その後は…、
乡愁是一方矮矮的坟墓,	xiāngchóu shì yìfāng ǎi'aide fénmù,	郷愁とはちっぽけなお墓。

我在外头，母亲在里头。 wǒ zài wàitou, mǔqin zài lǐtou。 私は外、お母さんは中。
而现在， Ér xiànzài, そうして今、
乡愁是一湾浅浅的海峡， xiāngchóu shì yìwān jiǎnjiānde hǎixiá, 郷愁とは浅い海峡。
我在这头，大陆在那头。 wǒ zài zhètou, dàlù zài nàtou。 私はこっち。大陸はあっち。

(訳文：戸田裕司)

【解説】 余光中(1928-2017)は、台湾・中国、そして世界の華人社会でも著名な詩人・作家・翻訳者。「右手で詩を書き、左手で文章を書く」と呼ばれた多才な文化人である。台湾・アメリカ・香港の幾つもの大学で教鞭を執った学者でもある。

彼は国共内戦の中、22歳で中国から台湾へと移り住んだ。この詩「郷愁」は、1972年1月に、台北市内の住居で書かれたという。当時の中台関係により彼のような境遇の人びとが中国へ帰郷することは叶わなかった。余光中の心の中に、台湾海峡を越えた先にある中国大陸への強烈な「郷愁」があったことは想像に難くない。

今や台湾人のアイデンティティーや政治意識は大きく変貌し、彼の「郷愁」に素直に同情できる人は少数派であろう。それでもこの詩が多くの人びとに愛唱されたのは、この詩自身に大きな魅力が備わっているからであろう。その魅力の一部を忖度してみれば、ごくごく簡単な文体、ごくごく日常的な言葉で構成された、素直な比喩とロジックに誘われて、ついつい自分自身の心情を投影してしまう…ということではないだろうか。皆さんも朗読し、あるいは傾聴して、感じ取ってみてほしい。